



ほうきさん

2015年 12月

椋本673 存仁寺

生活の中で
念仏するの
ではなく
念仏の上に
生活が
いとなまれる

「和田 綱」

— 平和をめざす仏教者として —

師走三日、専如ご門主が東海教区ご巡回、名古屋別院ご巡拝にお越しになり、愛知・三重各地より僧侶、寺内、門信徒方々が参集されました。私も、横山責任役員と出席させていただきました。午前より境内ではマルシェが開かれていました。

ご門主が到着され園児をはじめズラリとお出迎え、参集の方に言葉をかけてみました。

その後、記念式典がありました。

「讃仏偈」の唱和のあと、「ご消息」をご親読されました(ほうきさん二月号に全文表示)。藤野総務の挨拶、北海道教区の脇谷特命布教使のお話を聞き、記念行事として葛飾北斎の百二十畳大達磨図がクレーンで持ち上げられ湧き上がりました。また、園児と「ダルマさんが転んだ」に参加されるなどご門主が身近に感じられたことでした。



ご消息の中での「科学技術の発達による便利で豊かな生活の追求や欲望の肥大化はとどまることを知りませんが、人々は、そのような豊かさのみを追求することの虚しさに気づきはじめてのではないでしょうか。しかも、核家族化・人口の流動化などによって社会構造は大きく変化し、人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出しています。さらに世界に眼を移せば、武力紛争、経済格差、気候変動、核物質の拡散など、人類の生存に

関わる課題が露呈しています。これらの傾向は今後一層強くなっていくことと思います。」と提起されました。そして、この現実の問題をどう克服していくのかということに対して、「凡愚のまま摂め取って捨ててないとはたつき続けていくくださる阿弥陀如来のお慈悲を聞信させていただき、その有り難さ尊さを一人でも多くの方に伝えることが大切です」と言葉を示されたことが私には響きました。

人生は一人ひとりが歩むものです。しかし、その道は決して穏やかではありません。だからこそ自身が阿弥陀如来の慈悲にであい、聴聞させていたいただきたいことです。その聴聞も、一度聞いて「ああ、そうだったんだ、ありがたいことだ」という方にはまだ、出会ったことはありません。また、そんなたやすいものではありません。親鸞聖人のご内室、恵信尼さまのお手紙には「来世に救われる教えを求め、法然上人にお会いになりました。そこで、六角堂にこもったように、また百日間、雨の降る日も晴れた日も、どんなに風の強い日もお通いになったのです。そして、ただ来世の救いについては、善人にも悪人にも同じように、迷いの世界を離れることのできる道を、ただひとすじに仰せになつていた上人のお言葉をお聞きして、しっかりと受けとめられました」とあります。いま、ここ、この私にすでに届いている阿弥陀如来のすくいをなんども何度も、聞いてまいりましょう。住職



12月の行事

- 1日(火) 6時30分 おあさじ
2日(水) 19時30分 コーラス
3日(木) 餅つき
4日(金) 盛り物
5日(土) ~7日(月) 報恩講法要

(5日夕方子ども報恩講) (6日お斎当番下組)

- 16日(水) 6時30分 おあさじ
31日(木) 14時 無縁総追悼法要

22時 除夜会

- 1月1日(金) 1時30分 修正会



1月の行事予定

- 1日(金) 6時30分 おあさじ
6日(水) 19時30分 コーラス
10日(日) 仏教壮年会本山御正忌参拝
14日(木) 10時 無量寿会例会新年会
16日(土) 6時30分 おあさじ
17日(日) 13時 仏教婦人会班長会
31日(日) 仏教婦人会報恩講法要



宗派・教区・鈴鹿組関連

12月16日(水) 花まつり実行委員会 19時 光明寺

除夜会

あなたにとってどんな一年でしたか。

どんなであいがありましたか。

年の最後は、**除夜の鐘**にて。



12月31日(木) 11時よりおつとめ「重誓偈」

11時45分つき始め

本堂にて温かいものを用意しています

元旦会(修正会)

1月1日(金) 午前12時45分

『現世利益和讃』をおつとめします



仏教婦人会報恩講法要

1月31日(日) 午後1時半

法話 四日市 正覚寺 内田正祥師



還暦のお祝い

2月28日(日) 午後3時より還暦のお祝いを
持たせていただきます。今年は昭和30年
(1955年) 生まれの方が対象です。

還暦を迎えられた方はお寺まで
お知らせください。



「生活の中で 念仏するのではなく
念仏の上に 生活がいとまれる」
いつの間にか、今年のカレンダーも残り一枚になりました。見ていると、ここまで生かされながら、生きてきたありがたさを思わずにはおれません。毎日の生活に追われて、また一年が終わろうとしています。さまざまな出会い、いろんな事柄が次々と浮かんで消えていきます。マラソンでいえば、もう三十五キロ地点を超えたあたりに思いますが、残りのゴールまで無事到達する保証はどこにもありません。それでも足を止めず、ゆっくりでも走り続けるばかりです。できるだけブレーキを踏まないように、アクセルを踏み続けて、(プラス思考で) 走っていきたいと自身に気力を注いでいます。広大な仏さまの智慧と慈悲に包まれて、日暮らしさせていただく幸せをありがたく受け止めています。日々の勤行で「正信偈」をお勤めしますが、いつも「極重悪人唯称仏 我亦在彼撰取中 煩惱障眼雖不見 大悲無倦常照我」(極重の悪人はただ仏を称すべし。われまたかの撰取のなかにあれども、煩惱、眼をさへて見たてまつらずといへども、大悲もののうきことなくして、つねにわれを照らしたまふといへり)のところを「わがごと」と味わっています。これからも、いつまでも、どこまでも、お浄土へと続くお念仏の道をひたすら歩み、走り続けてまいります。仏さまが見護っていてくださいます。待っていてくださいます。ありがとうございます。